

キャラクター名
大太 法師

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ	ワークス	UGN支部長C	カヴァー	高校生
	キュマイラ				
オプション		年齢	—	性別	男
覚醒	素体	衝動	吸血	初期侵食率	33 %
出自	姉妹	経験	裏切られた	邂逅	自身

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	33
肉体	6	0	0			6	行動値	3
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	3
精神	0	1	0			1	戦闘移動	8
社会	2	0	0			2	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	1		交渉		
回避			知覚			意志	1	1	調達	3	
運転:			芸術:			知識: 高校	2		情報: UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
聖剣の王者	白兵	6r	7	15		
		0		27		
				29		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
ウェポンケース	
思い出の一品	
制服	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
聖剣の王者	P	N		
敷島あやめ	P 尽力	N 疎外感		
妹	P 幸福感	N 食傷		
木野 辰巳	P 連帯感	N 不信感		
部下	P 庇護	N 食傷		
	P 遺志	N 嫌悪		
八雲	P 誠意	N 嫌気		

最大財産P: 10 残り財産P: 7

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
軍神の守り	1	2	オート	至近	単体	自動		
効果:	カバリングを行う							
イージスの盾	5	3	オート	至近	自身	自動		
効果:	ガード値を+1VDする							
復讐の刃	1	6	オート	至近	単体	対決		
効果:	リアクション放棄、白兵攻撃							
剛身獣化	5	6	マイナー	至近	自身	自動	ピュア	
効果:	シーン中、攻撃力+lv*2, 装甲+LV*3							
スーパーランナー	1	1	マイナー	至近	自身	自動		
効果:	移動力+lv*5, 戦闘移動, シーン1							
体型維持	★							
効果:								
獣の臭い	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

神の依り代としてつくられ、育てられた御子。
小さな村の小さな宗教。しかしその村では”それ”を信仰するものしかおらず、儀式を止める者などいなかった。
脚を伸ばし、腕を伸ばし、胸を伸ばす。巨人の器として少しでもふさわしい形をとらせ、神を降ろす御子とする。
オーヴァードの台頭以前に行われた儀式の被害者であり、数多の犠牲者の中のたった一つの成功例である。

降ろされたのは『大太朗法師』、神というより妖怪の類に近い。

集落は、標高が低い場所にあり、水害に見舞われることが多かった。雨が長く続くと周囲の水が流れ込むようになり、田畑がだめになってしまう。
ひどいときには家が流されたり、土砂崩れに巻き込まれたりということもあった。
これ以上被害を出さないようにと、水にかかわる蛇を祀るといったこともあったが、被害が減ることはなかった。
誰もが肩を落とし絶望したとき
一人の男が言った「雨がどうにかできないのであればこの場所そのものを変容させれば」いい、と。

結果山をつくる、足跡を残したという逸話を残す『大太朗法師』の存在をかき集め、小さな集落での狂信が始まったのだ。
たった一つのよりどころ、最後の希望と言わんばかりに村民からの信仰を集め、供物を捧げ自らの子をさえ器とした。
初めは抵抗があった者が多かったが、一度二度と回数を重ねるうちにその感覚は消えていく。
数が増える中で、御子を作るためだけの保育所も建てられた。
生めや増やせや地に満ちろと言わんばかりに子供が増え、器になれず大勢が死んでいく、近親相姦の果てに生まれたものも少なくなかったらしい。

どれほどの奇跡を重ねたのか幾度の失敗の成果か、御子は完成し『大太朗法師』は地に降りた。
むかしは名前があったろうが、『大太朗法師』を降ろした時に彼の名は”大太朗法師”となる。